

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	森林づくり推進支援金事業	会計	一般会計	事業No.	439	施策順No.	52-004	
		事業種別	政策・重点	予算科目	6-2-2-11-6			
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	林務課			
施策	52 身近な自然と生活環境の改善			事業期間	開始	20	終了	24

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市内の民有林						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		森林(民有林)面積(ha)		40499	40499	40499	40499	
	意図	1. 里山を整備して良好な環境整備や景観形成を図る。 2. 市内木質燃料の普及・啓発により木質燃料の利用拡大を図る。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	1. 整備済面積(ha)		8.96	9.55	11.5	9.57	12	B
	2. 飯田市の木質燃料の生産量(t)		597	0	0	0	0	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		竹藪整備事業量が大幅に増加したため、目標面積には届かなかったが、成果としては良好であるためB評価とした。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	【長野県森林づくり県民税活用事業】 市町村支援 (森林づくり推進支援金事業) 地域固有の課題に対応した森林整備の推進や、間伐材の利用促進などを行うための市町村の取り組みに対しての県の支援金。 飯田市独自の取り組みとして、平成20年度は3事業を申請したところ、県主催の県民会議や地域会議に於いて承認され決定された。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	長野県森林づくり県民税活用事業 1 緩衝帯整備事業:野生鳥獣のいる荒廃森林や、通り道となっている荒廃森林等の藪払いや不用木などを伐倒処理することでシカ、イノシシ、サル等の林産物被害を防止すると同時に、良好な森林景観の形成を図る。 2 竹林整備事業:導入した破碎機の消耗品費、修繕費を10/10事業で実施し、緊急雇用創出事業と合わせて、市内の竹藪の整備を進める。(竹林整備事業:破碎機を貸し出す事により、自治会・集落等の実施する竹藪整理を支援する。23年度以降)	1 面積 3 式	1 9.57ha 2 1式
	長野県森林づくり県民税活用事業 1 緩衝帯整備事業:野生鳥獣のいる荒廃森林や、通り道となっている荒廃森林等の藪払いや不用木などを伐倒処理することでシカ、イノシシ、サル等の林産物被害を防止すると同時に、良好な森林景観の形成を図る。 2 里山整備事業:集落周辺の里山を整備し居住環境の改善と、景観対策を図る。 3 竹林整備事業:導入した破碎機の消耗品費、修繕費を10/10事業で実施し、緊急雇用創出事業と合わせて、市内の竹藪の整備を進める。(竹林整備事業:破碎機を貸し出す事により、自治会・集落等の実施する竹藪整理を支援する。23年度以降)	1 面積 2 面積 3 式	1 5.0ha 2 5.0ha 3 1式

3 事業コスト

事業費	(千円)		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	特定財源	国庫支出金				
		県支出金	5,000	5,000	5,000	(県)森林づくり推進支援金(10/10以内)
		起債				
		その他				
		一般財源				
		計(A)	5,000	5,000	5,000	
		正規職員所要時間				
		臨時職員等所要時間				
		人件費計(B)		0		
		トータルコスト A+B		5,000		

4 事業に対する市民や議会の意見

市民からは、森林税を有効に使って頂きたいとの意見がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	水や緑が守られ増える	施策の成果指標又はムトス指標	身近な自然は守られていると感じる市民の割合 % 市内の河川の水生生物の分布数種
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	平成20年より事業実施したが、事業実績管理に大変役に立った。		
	後期に向けた課題	前期4年間と同様に実績管理に役に立つ。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	地権者説明会を開催し、成果の向上に努めた。		
	後期に向けた課題	前期と同様に地権者説明会の開催による、同意の取得が課題となる。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	竹藪整備は通常の森林整備と比べ3倍以上の費用が必要であるため、入札に付すことでコスト削減に努めた。		
	後期に向けた課題	前期4年間と同様にコスト削減を図る。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益は市内の民有林であり、長野県森林税10割事業のため受益者負担金は発生しない。また同事業の事業主体は市町村と定められており、市以外に実施者はいない。		
	後期に向けた課題	受益は市内民有林であるが、集落周辺で実施しているため、小規模な所有者など、複雑な所有形態となっており、早期に事業実施をはかる必要がある。 市の関与については、市以外に事業主体になれないため、積極的に関与する必要がある。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	本事業導入まで荒廃した市内民有林整備(特に竹藪と里山)を整備することで、住民に身近な里山が整備され森林税を有効に活用できた。 また地域住民と市が一体的に事業を進めることができた。		
	後期に向けた課題	前期4年間において整備された里山整備を継続し、竹藪や荒廃した里山の整備を進めるため、地域住民と一緒に事業展開を図る必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	事業初年度は、竹藪整備を中心に実施し、後半は里山整備(竹藪整備含む)を中心に事業をおこなった。 整備を実施した付近住民からは評価されている。		
	後期に向けた課題	森林税を活用した整備を行っていない地区で整備を進めること。 また飯田市特有の風景である、段丘を天竜川の対岸から展望できるような場所で、地域住民と一体的な事業展開を図る必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------